

Financial Results

財務情報(要約)

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	16/3期 前期	17/3期 当期
売上高	15,011	15,444
営業利益	1,963	1,906
経常利益	1,958	1,997
親会社株主に帰属する当期純利益	361	795

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	16/3期 前期末	17/3期 当期末
流動資産	5,064	6,221
固定資産	1,469	1,430
資産合計	6,533	7,651
流動負債	3,374	3,759
固定負債	69	1,033
転換社債型新株予約権付社債	—	1,017
負債合計	3,444	4,793
株主資本	2,773	2,590
資本金	300	300
資本剰余金	368	277
利益剰余金	3,604	4,164
自己株式	△1,499	△2,152
その他の包括利益累計額	41	42
新株予約権	14	—
非支配株主持分	260	225
純資産合計	3,089	2,858
負債純資産合計	6,533	7,651

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	16/3期 前期	17/3期 当期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,080	1,825
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17	△610
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,913	△69
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△860	1,146
現金及び現金同等物の期首残高	3,058	2,197
現金及び現金同等物の期末残高	2,197	3,344



Corporate Data

会社概要(2017年3月31日時点)

会社概要

社 名	株式会社ハーツユナイテッドグループ (Hearts United Group Co.,Ltd.)
設 立	2013年10月1日
資 本 金	300百万円
発行済株式総数	23,890,800株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:3676)
グループ会社 (*は関連会社)	株式会社デジタルハーツ DIGITAL Hearts Korea Co., Ltd. DIGITAL Hearts USA Inc. DIGITAL Hearts (Thailand) Co., Ltd. DIGITAL Hearts (Shanghai) Co., Ltd. Aetas株式会社 株式会社フレイムハーツ 株式会社ネットワーク21 EVO Japan 実行委員会有限責任事業組合 *株式会社ZEG
従業員数(連結)	648名

株主メモ

事業年度	4月1日~翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日 定時株主総会	毎年3月31日
期末配当金	毎年3月31日
中間配当金	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う
公告掲載URL	http://www.heartsunitedgroup.co.jp/

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、投資家の皆様向けの情報をはじめ、事業内容や最新のニュースなど、さまざまな情報を公開しています。

▶ <http://www.heartsunitedgroup.co.jp/>



株主通信

2017年3月期

2016.4.1 ▶ 2017.3.31

証券コード: 3676

「新たな成長ステージに向けて」

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、代表取締役社長 CEOに就任いたしました玉塚元一です。就任にあたり株主の皆様にご挨拶申し上げます。

21世紀におけるデジタル化の進展は、パソコンからスマートフォンへといった技術変化をもたらし、企業、公共機関から身近な製品まで、身のまわりの生活の隅々にデジタル製品が浸透しています。そして、デジタル技術はその先にある新しいテクノロジーを常に追求し、商品やサービスを変え、産業全体の構造を変え、新しい価値を生み出し続けています。

当社グループは、デジタル製品の不具合を検出する「デバッグ」を通じ、デジタル技術の目まぐるしい変化をいち早く察知するとともに、より一層、デジタル社会の安全・品質に対する社会的使命を認識し、様々な産業で必要とされる企業になることを目指します。

当社グループには、そのポテンシャルと、ノウハウが十分にあると考えています。

株主の皆様はもちろんのことですが、お取引先さま、従業員、社会というステークホルダーの全ての方々とともに成長を続け、新たなステージに向かってまいります。

今後も、一層の発展に努めてまいりますので、何卒倍旧のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ハーツユナイテッドグループ

代表取締役社長 CEO **玉塚 元一**

プロフィール

1962年生まれ。旭硝子(株)に入社。(株)ファーストリテイリング代表取締役社長兼COOに就任。その後、事業再生、経営支援を手がける(株)リヴァンプを設立、代表取締役に就任。2014年(株)ローソン代表取締役社長に就任、2016年より同社代表取締役会長。2017年1月より当社顧問、6月当社代表取締役社長CEOに就任。





「第二創業期を迎え、 全社一丸となった新たなチャレンジを」

2017年6月の株主総会を経て、当社グループ（以下、「HUG」）は新経営体制となりました。会長の宮澤 栄一と、新社長に就任した玉塚 元一が、今後の抱負を語ります。

玉塚 宮澤さんとお話するなかで、HUGの持つ事業ポテンシャルや人材資産に非常に興味を持ちました。私のこれまでの経験と感性で「ブレイクスルーのチャンス」を感じ、惹きつけられたのだと思います。何て面白い会社だと思いました。

宮澤 16年前、アルバイト先で出会った「働いたことがない、自信がない」という仲間達が「生き生きと働き、活躍できる場」を創ることを目標に創業しました。その後、多くの仲間が集まり、上場を果たし、業績も每期増収を続け、事業の対象領域も大きく拡大し、今はやる気と自信がみなぎるプロフェッショナル集団となりました。

玉塚さんと初めてお会いしたとき、パワーと明るさがとても印象に残りました。親身かつ真剣に事業について話すことができ、後日、デバッグ作業拠点を案内したときも、メンバーに屈託なく話しかけてコミュニケーションする場面を見て、非常に嬉しく感じたのと、何か化学反応が起きそうな予感がしました。

玉塚 実際にデバッグを行うテスターさんとお話したり作業風景を見たとき、宮澤さんから聞いた創業の想いや、「正義を貫く」という姿勢は、HUG全体に浸透し根付いていると感じました。「とにかく、一生懸命、まっすぐに仕事と向き合う」という一人ひとりの姿勢や、人材のパワーに感銘を受け、さらに創業者である宮澤さんの第二創業への覚悟を受けて、私も全力で挑戦したいと思いました。

宮澤 HUGは、事業ドメインの一つであるゲーム分野のデバッグでは国内シェアNo.1となり、いま、ゲーム以外のビジネスの領域に事業を拡大する新たなステージにあると考えています。

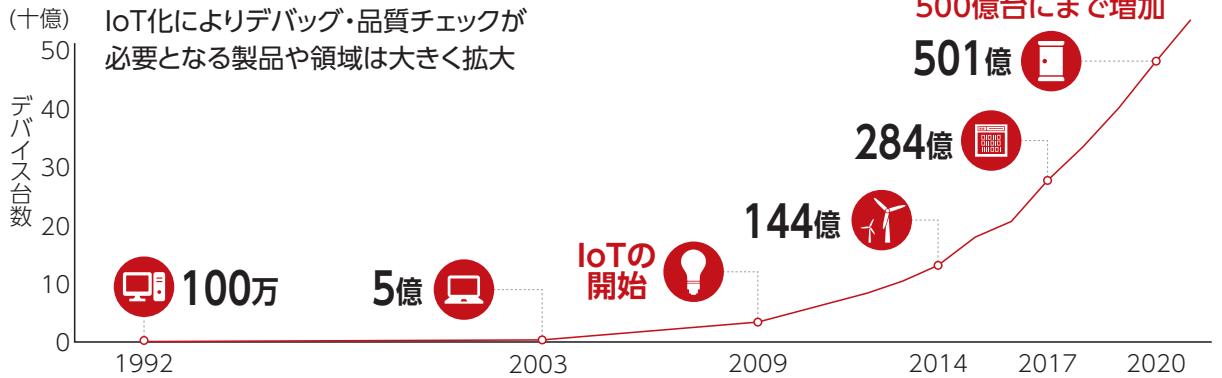
HUGを取り巻く事業環境は、デジタル化の進展により、沢山のチャンス、ニーズがあります。玉塚さんのような、これまでも多様な業界で時代の変化を取り入れながら改革を進めてきた経営経験のある人がリーダーとなれば、この沢山のチャンス、ニーズを一気に攻め、『第二創業期』として大きく飛躍できると考え、社長をお願いする決断をしました。もちろん、私も今後も取締役会長として、全力で玉塚さんを支援していきます。

玉塚 宮澤さんがおっしゃるように、HUGは、延長線上の成長ではなく飛躍するために大きく舵を切るタイミングであると思います。

『第二創業期』の舵取りを新たに担い、HUGの持つ成長機会、企業価値を最大化するため、個の強さに加え、組織として磐石な体制を整備していきたいと考えています。既に、経営陣をはじめ営業や業務の現場メンバー、テスターさんとのディスカッションを通して様々な改革案を検討しています。

玉塚 「デバッグ」は、デジタル化が進む現在において「デジタル製品の不具合を見つける」という非常に社会的存在意義の高い仕事です。実際にVRやIoTといった新しい技術を使った製品のデバッグニーズは拡大しており、HUGはそれらの需要に確実にキャッチアップしています。業界でとても優位なポジションが取れていますので、今後は、営業力の強化とともに、業界特性に応じたAIの活用やセキュリティ対策など様々な要素を取り入れた戦略的なサービス化を図っていきます。

■デバッグニーズの拡大



また、HUGは慢性的な人材不足であるIT業界で、独自の人材教育モデルを生み出し、成功している組織です。私自身、非常に驚いた点ですが、デバッグは必ずしも高度な理数系やプログラミングのスキルを持つ人材の雇用が優先施策ではないといえます。HUGは、どの企業も必死に苦労しているような学位を持つ人材や経験者採用ではなく、学歴や就業経験に囚われず、未経験者を積極的に採用し、その後の現実的なステップアップに重点を置いており、何百人という人がそのステップアップを通じてプロ

取締役会長
宮澤 栄一

フェッショナル人材へと成長しています。また、技術的な能力のみならず、高い倫理観も持ち合わせており、こういった組織的な体制は、年月をかけて構築されるもので、既にその仕組みが醸成されていることは、何よりの強みだと思います。

今後は、さらに多様な雇用を生み出し、ステップアップの質と、その先の活躍フィールドを広げていきます。

宮澤 そうですね。HUGは、これまで培ってきたノウハウ、強みを基盤に、『第二創業期』を迎え、力強いスタートを切り走り出しました。今後もこの勢いをさらに加速させ、新しいステージでの成長を目指します。

玉塚 全てのステークホルダーとコミュニケーションをしっかりととり、HUGが大切にしている姿勢は受け継ぐとともに、現場の気持ち、お客様のニーズ、社会の動きなど、常に動いている流れを的確につかむことで、新しいチャレンジ、改革を進めていきます。

代表取締役社長 CEO
玉塚 元一

■3つのアクション



What's HUG doing?

デジタル製品に潜む“不具合”から生活を守る「デバッグ」

インターネットを通じて広がる・つながるデジタル化。

HUGは、全てのデジタル製品が安全に安心して利用できるように、デジタル製品の不具合を発見し身のまわりの生活を守っています。



Anyone Anybody 誰でも

子供からお年寄りまで使う身近なデジタル製品。ユーザーの目線で不具合を発見します。



Anytime いつでも

スマートフォンの普及により必要なときにいつでも使えるように。あらゆる状況を想定したチェックを実施します。



Anywhere どこでも

デジタル製品は自宅、会社、外出先など色々な場所に。離れた場所でもきちんと操作できるかを検証します。



Anything Any Device なんでも

インターネットであらゆるモノがつながるIoT社会へ。全てがつながり正しく動作するかを確認します。

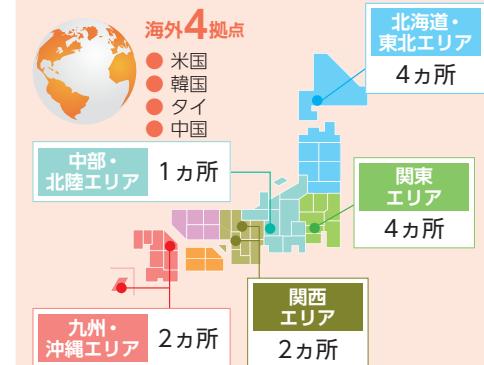


デバッグのサービスの流れ

海外4カ国・国内13拠点のネットワーク

取引実績2,000社以上

デバッグ拠点であるLab. (ラボ) は首都圏のみならず地方にも積極的に展開し多くの雇用を創出しています。



ご依頼

不具合をご報告

ゲームメーカー	モバイルアプリ開発会社
アミューズメント機器開発会社	システム開発会社
自動車メーカー	

その他、WEBサイトや自社アプリなど金融・小売・流通など業界を問わず様々なお客様よりご依頼いただいております。

製品化、販売



ユーザーである皆様のお手許へ

全国のLab.で働く8,000名のテスターが不具合(バグ)を発見

8,000名の登録テスターが、現場経験を積み、当社独自の教育プログラムによって知識と技術力を向上。不具合(バグ)を見つけるプロフェッショナルとして活躍しています。

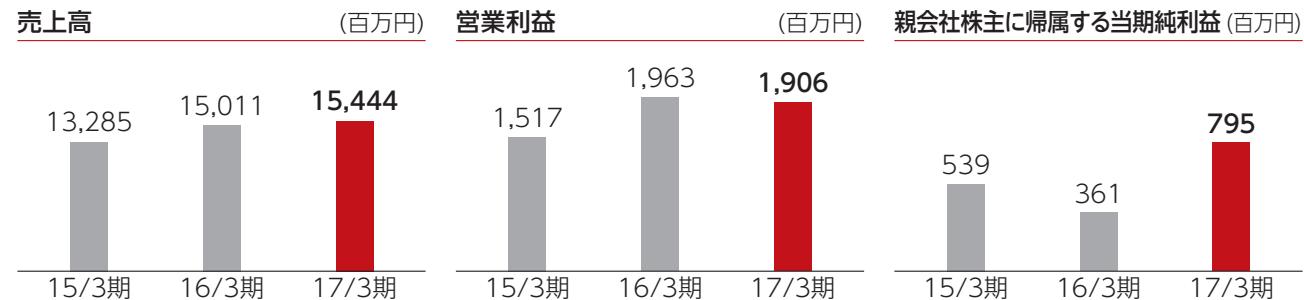


競争力の強化及び新分野・成長分野への事業展開を加速

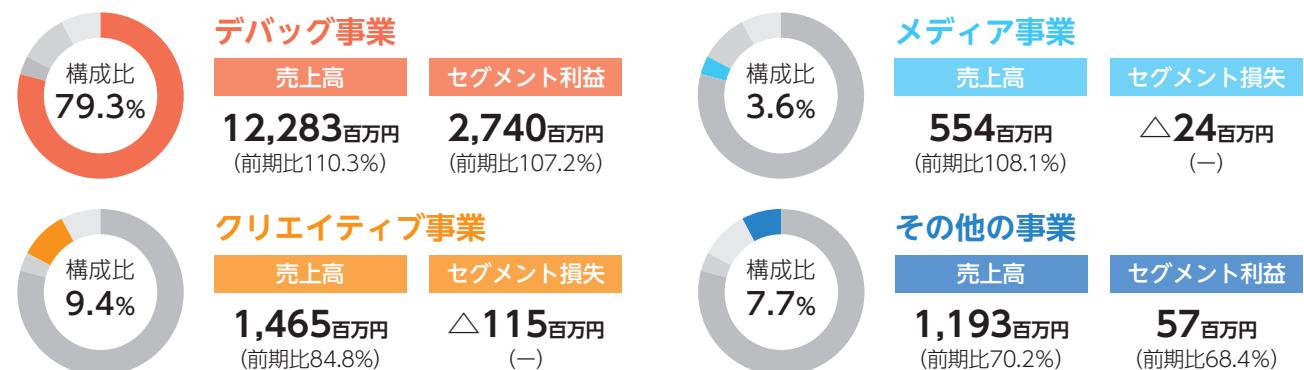
主力のデバッグ事業を取り巻く環境は、PlayStation®VRやNintendo Switch™の登場により、新たな技術や遊び方を追求したコンテンツの開発が進みました。当社グループでは、VR (仮想現実) の安全性について国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同研究を、また、多様な分野で実用化が進むAI (人工知能) 分野においては、2月にHEROZ株式会社とソフトウェア検証と人工知能技術を融合した新サービスの実用化に向けた取り組みを開始するなど、多様化する顧客ニーズに対応するため、新サービスの開発や外部パートナーとの共同研究を推進してまいりました。

その結果、2017年3月期の売上高は、デバッグ事業が10%をこえる成長を実現し15,444百万円 (前期比102.9%) となり13期連続増収を達成いたしました。また、次期以降を見据え人員の増強や新規事業に向けた先行投資を実施したため販売費及び一般管理費が増加し、営業利益は1,906百万円 (前期比97.1%) となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、のれん及び固定資産の減損損失等を計上した一方、前期に発生した特別損失の反動により795百万円(前期比219.7%)となりました。



セグメント別の概況



基幹事業であるデバッグ事業の2桁成長を継続し、過去最高の売上高・営業利益を目指します

重点施策

- 主力のデバッグ事業ではNintendo Switch™等のゲームや運営フェーズでのデバッグ需要が拡大しているモバイルゲーム等、得意分野であるゲーム領域の受注獲得に注力
- 成長余地の大きいIoT関連のシステム検証等の事業展開を加速、VRやAI等のテクノロジーの活用に向けた研究開発を推進し付加価値の高いサービス開発を強化
- 各セグメントの専門領域を活かし相互支援体制を構築、シナジー効果の創出を図りグループ全体の成長性と収益性を追求

連結業績予想

(百万円)	17/3期 当期実績	18/3期 次期予想	前期比
売上高	15,444	17,622	114.1%
営業利益	1,906	2,200	115.4%
経常利益	1,997	2,225	111.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	795	1,382	173.8%

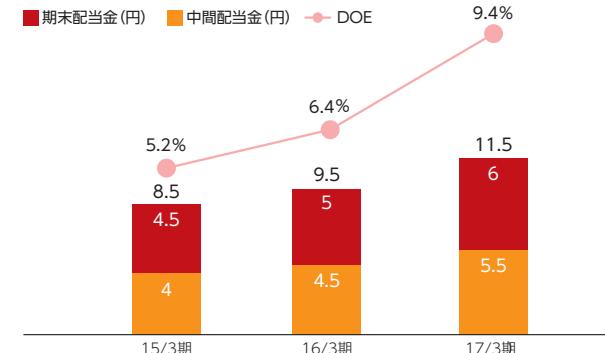
Dividends & Shareholder Returns

株主還元

8期連続増配を実施

当社は、連結ベースでの中期的な目標純資産配当率 (DOE) を7%としたうえで、連結業績等を総合的に勘案しながら配当を実施いたします。当期の年間配当金につきましては、前年より2円増配し11.5円とさせていただき、次期は、当期と同じく11.5円の年間配当を予定しております。

配当金・DOEの推移



※2016年10月1日を効力発生日として1:2の分割を実施。株式分割を考慮した場合の金額を記載しています。

株主優待

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元 (100株) 以上保有の株主様を対象としております。

保有株式数	株主優待品
1単元 (100株) 以上2単元 (200株) 未満	おこめギフト券 (3Kg分)
2単元 (200株) 以上	おこめギフト券 (6Kg分)

自己株式の取得

今後の事業展開に応じた機動的な資本政策を遂行するとともに、株主還元及び資本効率向上のため自己株式を取得いたしました。

取得期間	取得した株式の総数	株式の取得価額の総額
2017年2月20日から 2017年4月13日まで	664,500株	999,960千円

